

《資料 PART 2》

1. 「振り返り」活動について補足

◎ 「次の目標」を明確にする振り返りについて

- 振り返りの3つの視点
- A 学習の過程や学び方
 - B 知識・技能などの広がりや深まり
 - C 情意や意欲の向上

☆ 自分の変容を自覚するために、以下の①～③の項目を必須として振り返りをさせてください。

「56-37の計算の仕方」の授業を例にとって説明すると…

① できたところ（新たな発見、なるほどと思ったことなど）

例・一の位から引けないときに、くり下がりをすれば引けることがわかった。

② できなかったところ（理由を考える）

・全問正解できなかった。くり下がりの計算をまちがえたからだ。そこが苦手だとわかった。

③ 次はどうしたらできるようになるか（改善策を考える）

・苦手だとわかったので、くり下がりのやり方をおさらいして、次は完璧にできるようにする。

○その他

- ・○○さんの説明がとても分かりやすかった。（友達のこと）
- ・なぜ○○なのだろうかと思った。（疑問に思ったこと）
- ・昨日よりも、ノートを分かりやすく書くことができた。（自分の成長）
- ・三桁のくり下がりのひき算にも挑戦したい。（これからやってみたいこと）

※これらを基に、必ず次回の目標を書かせるように声かけをしてください。

なかなか書けない児童がいると思います。最初は1行でも書く。それからスモールステップで長い文章へ。箇条書きでも可。

☆その日の学習内容については、毎回変わるものである。

その他に、年間を通して、児童個人が一貫して取り組むものも設けてもよい。

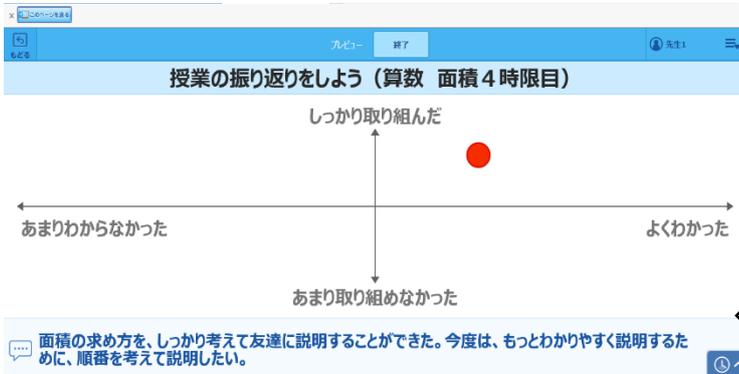
- ・発表回数、ノートを丁寧に書く、ともだちに説明する、など。

○前回の「振り返り」を確認させる。

・SKYMENU「ポジショニング」を使用した場合、以前の「振り返り」が保存されているので、それを閲覧し、前回立てた目標を確認したり、前回の自分と比較したりすることができる。

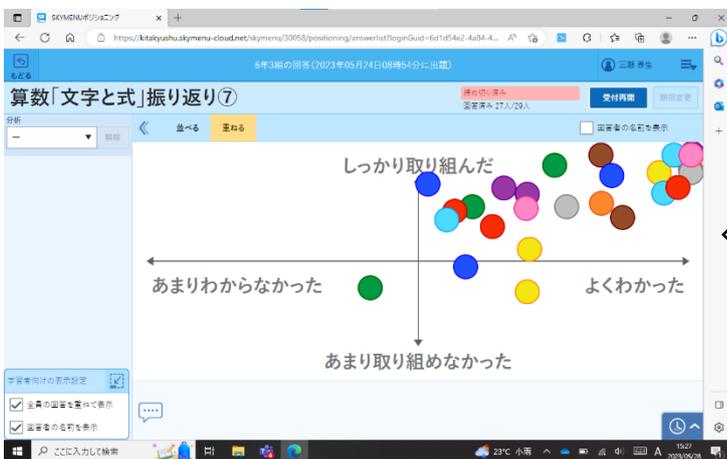
〈ポジショニング〉スカイメニューのアプリ

《個人》の振り返りを表示できる



ここにコメントが書ける。
次の目標を書かせましょう！
文字数が多くなっても、下にスクロールします。

《クラス全体》の表示もできる



マークの散らばりを見ることで、全体の理解度が把握できる。
また、誰のマークなのか表示もできます。

☆「宿題」にも、「めあて」と「振り返り」を書かせるとよい。

・秋田県「東成瀬村」の取り組みと成果

全国学テで、常にトップクラスの成績を収めている秋田県の小さな村であるが、県で一番になったことがある。その村では家庭（自主）学習ノートを徹底的に活用している。取り組みの一つとして、自学ノートでも「めあて」と「振り返り」を記入させていた。その他、日付、取り組む内容、取り組んだ時間（始めた時刻～終わった時刻）も記入させている。

東成瀬村では、「振り返りのことば集」も配布している。自分で「できたところ」「できなかったところ」「次はどうしたらできるようになるか」を発見できる子どもに育つ。最初は1行からでもよい。

沼小でも、「振り返りの言葉集」を作成します。各学年、授業で「振り返り」をしていく中で、よいと思うものを見つけておいてください。（算数や、それ以外の教科でも）研究のまとめの際に、集めるのでよろしくお願いします。

参考文献「めあて・まとめ・振り返り」Q & A集 北九州市教育委員会 学力・体力向上推進室 2016年

「秋田県東成瀬村のすごい学習法」主婦の友社編 2019年